



2024年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年11月14日

上場会社名 株式会社ユニバーサルエンターテインメント 上場取引所 東
コード番号 6425 URL <https://www.universal-777.com>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岡田 知裕
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 麻野 憲志 TEL 03-5530-3055
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年12月期第3四半期の連結業績（2024年1月1日～2024年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年12月期第3四半期	92,366	△25.6	423	△97.4	△11,974	—	△19,461	—
2023年12月期第3四半期	124,094	40.0	16,565	—	32,298	160.4	23,943	846.6

(注) 包括利益 2024年12月期第3四半期 △24,042百万円 (—%) 2023年12月期第3四半期 40,770百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年12月期第3四半期	△251.14	—
2023年12月期第3四半期	309.02	308.97

(注) 2024年12月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年12月期第3四半期	597,805	362,012	60.5	4,671.12
2023年12月期	628,006	388,388	61.8	5,011.39

(参考) 自己資本 2024年12月期第3四半期 361,969百万円 2023年12月期 388,336百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年12月期	—	40.00	—	0.00	40.00
2024年12月期	—	30.00	—	—	—
2024年12月期（予想）	—	—	—	0.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

※ 配当予想の修正については、本日公表いたしました「業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

3. 2024年12月期の連結業績予想（2024年1月1日～2024年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	126,000	△29.6	2,000	△93.4	△8,700	—	△18,300	—	△236.15

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 業績予想の修正については、本日公表いたしました「業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年12月期3Q	80,195,000株	2023年12月期	80,195,000株
② 期末自己株式数	2024年12月期3Q	2,704,096株	2023年12月期	2,704,096株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年12月期3Q	77,490,904株	2023年12月期3Q	77,483,934株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士または監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(4)連結業績予想について」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
(4) 連結業績予想について	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(会計方針の変更)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9
(4) 追加情報	10
(5) 重要な後発事象	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

2024年12月期 第3四半期累計	売上高	営業損益	経常損失	親会社株主に帰属する 四半期純損失
個別(百万円)	32,542	△963	△12,024	△17,371
連結(百万円)	92,366	423	△11,974	△19,461

遊技機事業においては、当第3四半期連結累計期間における総販売台数は64,706台となりました。統合型リゾート(IR)事業においては、フィリピンのカジノマーケット全体がジャンケットビジネスの停滞という状況にあること。VIP、マスターブルの勝率が、他の四半期に比べ低い水準だったことで減収減益となりました。

また、前年同期は2022年12月期と比較して円安ドル高となり多額の為替差益の計上があった一方、当四半期末では為替レートが前期末並みとなり多額の為替差益計上がなかったこと、社債利息はドル建であり当四半期途中まで続いた円安ドル高等の理由により前年同期比で増加しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は92,366百万円(前年同期比 25.6%減)、営業利益は423百万円(前年同期比 97.4%減)、経常損失は11,974百万円(前年同期 経常利益32,298百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は19,461百万円(前年同期 親会社株主に帰属する四半期純利益23,943百万円)となりました。

なお、事業セグメント別の業績は以下のとおりであります。各業績数値はセグメント間売上高又は振替高を調整前の金額で記載しております。

①遊技機事業

当第3四半期連結累計期間における遊技機事業の売上高は30,761百万円(前年同期比 36.1%減)、営業利益は4,006百万円(前年同期比 64.5%減)となりました。

遊技機業界では、スマートパチスロの稼働がパチンコホールの期待に応える好調な状況が続いており、パチスロ機の市場環境は良好です。一方、パチンコ市場はやや低調に推移しておりますが、ゲーム性の幅が広がったラッキートリガー搭載機やスマートパチンコの普及により、市場環境の回復が期待されています。

かかる状況下で当社は、主要タイトルである『沖ドキ!BLACK』の増産販売、新しい波を創造したオンリーワンパチスロ『スマスロ トロピカーナ』の市場投入を行いました。パチンコ機においてはラッキートリガー搭載機『Pドラムだ!金ドン 花火外伝』、人気アニメの世界観を再現した『Pメイドインアビス 虹の黄金域』の市場投入を行いました。

②統合型リゾート(IR)事業

当第3四半期連結累計期間における統合型リゾート(IR)事業の売上高⁽¹⁾は60,946百万円(前年同期比 18.9%減)、営業利益は1,996百万円(前年同期比 83.6%減)となりました。また、調整後EBITDA⁽²⁾は14,525百万円(前年同期比 39.3%減)となりました。

当社グループが運営する統合型リゾート施設「オカダ・マニラ」では、第3四半期においても前年同期を下回る実績となりました。ゲーミング事業においては、フィリピンのカジノマーケット全体がジャンケット⁽³⁾ビジネスの停滞に直面する中で、オカダ・マニラにおいてもVIP客の落ち込みが続きました。またVIP、マスターブルの勝率が、他の四半期に比べ低い水準だったことがゲーミング収益における減収の一因となりました。なお、マスマーケット、ゲーミングマシンの売上高については、コロナ禍後の反動需要があった前年を下回ったものの、コロナ禍前のピークであった2019年と比べて着実に伸びております。ホテル・飲食事業における顧客数は堅調に推移しております。

(1) 売上高は、総売上高からゲーミング税及びジャックポット費用を控除したもの

(2) 調整後EBITDA = 営業損益 + 減価償却費 + その他の調整項目

(3) ジャンケットとは、世界各国のVIPをカジノに誘客し、移動や食事等の世話をする仲介業者のこと

③その他

当第3四半期連結累計期間におけるその他の売上高は343百万円(前年同期比 44.5%減)、営業利益は374百万円(前年同期比 31.4%増)となりました。

メディアコンテンツ事業においては、App Store・Google Playにて、リバイバルをテーマとした「A PROJECT」の中から『ニューゲッターマウス』のシミュレーターアプリの配信を8月より開始いたしました。月額制サービスの「ユニバ王国」及び基本プレイ無料のソーシャルカジノゲーム「スロットストリート」においては、新規会員の獲

得や既存会員の継続意欲の向上に努めております。

(2) 財政状態に関する説明

当四半期連結会計期間末における財政状態については、以下のとおりです。

総資産の額は、非連結子会社に対する未収入金増加、持分法関連会社に対する貸付金増加、社債による資金調達を行ったことで繰延資産の増加があった一方、社債償還等による現預金の減少もあり、前連結会計年度末に比べて30,201百万円減少し597,805百万円となりました。

総負債の額は、連結子会社における長期借入金の返済による、1年内償還予定の社債を早期償還したことにより減少した一方、新たな社債・長期借入金による資金調達により増加したため、前連結会計年度末に比べて3,826百万円減少し235,792百万円となりました。

純資産の額は、利益剰余金が親会社株主に帰属する四半期純損失、配当金支払の計上により減少したこともあり、前連結会計年度末に比べて26,375百万円減少し362,012百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

①遊技機事業

遊技機業界における市場環境は、パチスロ機においては好調な稼働状況が続くスマートパチスロのシェア拡大、パチンコ機においてはゲーム性が拡充されたスマートパチンコ及びラッキートリガー搭載機の普及により、今後のさらなる活性化が予測されます。

第4四半期は、株式会社カプコンとの業務提携による遊技機第6弾として『スマスロ 鬼武者3』の市場投入、新規6.6号機に対応した沖ドキ！シリーズ最新作『沖ドキ！ゴージャス』の販売を開始しております。パチンコ機では、ラッキートリガー搭載機『Pえとたま2 神祭』の販売を開始しております。

当社は引き続き、独自性のある魅力的な遊技機創出に努め、遊技機業界全体の活性化に貢献するとともに、販売シェアの拡大に努めてまいります。

(ご参考) 2024年12月期 パチスロ・パチンコ販売台数

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期(見込)
販売台数(台)	28,014	15,030	21,662	27,000

(注) 第3四半期までの実績については、「2024年12月期 第3四半期決算補足資料」

(<https://www.universal-777.com/corporate/ir/library/result/>) をご参照ください。

②統合型リゾート(IR)事業

フィリピン観光省の発表によると、インバウンド旅行客数は堅調に伸びており、年度を通じて二桁成長が見込まれる状況です。

オカダ・マニラでは、人材採用とトレーニングを通じて、ゲーミング事業におけるマーケティング機能の強化を図っております。フィリピン国内顧客層の拡大を目指し、マニラのあるルソン島以外からの国内需要を取り込むだけでなく、日本・韓国・その他東南アジア各国からの観光客の誘致を目的としたマーケティング活動を強化しております。非ゲーミング事業においても、定期的なホテル・飲食イベントに加え、館内施設を利用した大型イベントの開催を継続することで、オカダ・マニラへの来場者数の増加を図ってまいります。2024年9月には、アジアのホテル施設の中から、ミーティング及びコンベンションホテル部門においてTTGトラベルアワードを受賞しました。ゲーミング、非ゲーミング事業が一体となって、施設全体の魅力度を高めるための取り組みを継続してまいります。

③その他

メディアコンテンツ事業においては、App Store・Google Playにて、『沖ドキ！BLACK』のシミュレーターアプリの配信を11月より開始しております。基本プレイ無料のソーシャルカジノゲーム「スロットストリート」では、7周年を記念して、ミリオンゴッドをモチーフとしたビデオスロット『ミリオンゴッド GATE LINK』の配信を10月10日より開始いたしました。月額制サービスの「ユニバ王国」においても、サービスの改善、ユーザー満足度の向上に努めてまいります。

(4) 連結業績予想について

2024年12月期の通期連結業績予想を修正いたしました。詳細については、本日(2024年11月14日)公表の「業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	44,300	17,278
受取手形及び売掛金	11,039	6,294
有価証券	2,448	769
商品及び製品	3,399	4,089
仕掛品	13,839	16,460
原材料及び貯蔵品	10,988	11,089
その他	18,827	21,213
貸倒引当金	△884	△802
流動資産合計	103,958	76,392
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	349,706	340,735
建設仮勘定	6,670	8,514
リース資産(純額)	49,784	48,486
その他	36,636	35,448
有形固定資産合計	442,798	433,185
無形固定資産		
その他	1,795	1,922
無形固定資産合計	1,795	1,922
投資その他の資産		
投資有価証券	9,941	10,185
長期預け金	8,743	8,801
関係会社長期預け金	34,402	34,640
関係会社長期未収入金	11,423	9,827
その他	19,634	26,725
貸倒引当金	△4,992	△4,772
投資その他の資産合計	79,152	85,407
固定資産合計	523,745	520,515
繰延資産	301	897
資産合計	628,006	597,805

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,399	7,693
1年内返済予定の長期借入金	4,467	571
1年内償還予定の社債	113,810	—
未払金	6,492	5,645
未払費用	10,169	8,916
未払法人税等	81	45
賞与引当金	87	323
その他	20,230	19,083
流動負債合計	164,739	42,278
固定負債		
社債	—	56,660
長期借入金	—	56,556
退職給付に係る負債	650	1,036
関係会社長期預り金	7,091	7,141
リース債務	56,650	57,123
その他	10,486	14,996
固定負債合計	74,879	193,513
負債合計	239,618	235,792
純資産の部		
株主資本		
資本金	98	98
資本剰余金	18,828	18,828
利益剰余金	364,273	342,487
自己株式	△7,298	△7,298
株主資本合計	375,900	354,114
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△20	△142
為替換算調整勘定	12,620	8,307
退職給付に係る調整累計額	△163	△310
その他の包括利益累計額合計	12,436	7,854
新株予約権	51	43
純資産合計	388,388	362,012
負債純資産合計	628,006	597,805

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)
売上高	124,094	92,366
売上原価	55,853	38,470
売上総利益	68,241	53,895
販売費及び一般管理費	51,676	53,472
営業利益	16,565	423
営業外収益		
受取利息	776	874
受取配当金	25	27
為替差益	10,712	2,058
賃貸借契約解約益	18,698	—
リース解約益	4,150	—
持分法による投資利益	—	254
その他	353	471
営業外収益合計	34,717	3,685
営業外費用		
支払利息	3,607	4,083
社債利息	7,952	11,530
支払手数料	8	10
持分法による投資損失	7,091	—
その他	324	460
営業外費用合計	18,983	16,084
経常利益又は経常損失(△)	32,298	△11,974
特別利益		
固定資産売却益	49	100
その他	2	8
特別利益合計	51	108
特別損失		
固定資産除売却損	2	3
関係会社株式評価損	—	149
海外投資損失	—	1,099
特別損失合計	2	1,252
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	32,347	△13,118
法人税、住民税及び事業税	235	98
法人税等調整額	8,168	6,244
法人税等合計	8,404	6,343
四半期純利益又は四半期純損失(△)	23,943	△19,461
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	23,943	△19,461

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	23,943	△19,461
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	59	△122
為替換算調整勘定	16,758	△4,312
退職給付に係る調整額	7	△146
その他の包括利益合計	16,826	△4,581
四半期包括利益	40,770	△24,042
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	40,770	△24,042
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)
減価償却費	12,940百万円	13,395百万円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2023年1月1日 至2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		その他 (注)	合計
	遊技機事業	統合型リゾート (IR)事業		
売上高				
外部顧客への売上高	48,135	75,151	618	123,905
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	371	371
計	48,135	75,151	990	124,277
セグメント利益	11,292	12,171	284	23,748

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、メディアコンテンツ事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	23,463
「その他」の区分の利益	284
セグメント間取引消去	△282
全社収益(注1)	189
全社費用(注2)	△7,089
四半期連結損益計算書の営業利益	16,565

(注) 1. 全社収益は、主に報告セグメントに帰属しない美術館の収入であります。

2. 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自2024年1月1日 至2024年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		その他 (注)	合計
	遊技機事業	統合型リゾート (IR)事業		
売上高				
外部顧客への売上高	30,761	60,946	343	92,052
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	671	671
計	30,761	60,946	1,014	92,723
セグメント利益	4,006	1,996	374	6,377

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、メディアコンテンツ事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	6,003
「その他」の区分の利益	374
セグメント間取引消去	△541
全社収益（注1）	314
全社費用（注2）	△5,726
四半期連結損益計算書の営業利益	423

(注) 1. 全社収益は、主に報告セグメントに帰属しない美術館の収入であります。

2. 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(4) 追加情報

該当事項はありません。

(5) 重要な後発事象

該当事項はありません。